

田沼高等学校

【 栃木県 】

平成17年(2005年)11月24日(木曜日)

第2584号

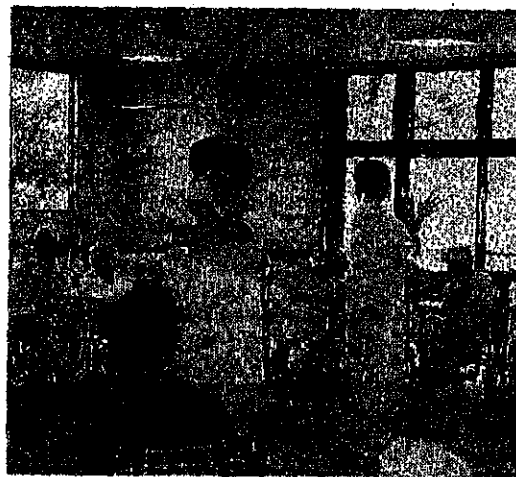
教育新聞

発行所 教育新聞社
 〒110-0005
 東京都台東区上野3-17-7
 代表 03 (3832) 3571
 FAX 03 (3832) 3570
 URL <http://www.kyobun.co.jp>
 E-mail kyoiku@kyobun.co.jp
 購読料 2625円(月額、税込)
 振替口座 00170-6-4969
 © 教育新聞社 2005
 週2回 月・木発行

主な記事

3
6

第15回全国産業 教育フェア東京大会



現場実習で福祉マインドをより一層深める

で社会福祉現場実習が行われ、直接介護を体験します。生徒は緊張と不安の連続ですが、実践的な能力と態度を身につけたいへん貴重な学習の場でもあります。田沼高校では現場実習の様子を紹介しします。

また、現場実習終了後、生徒は一人ひとり担当した利用者のケースレポートをまとめたり、1つのテーマに沿って深く研究し、冊子にまとめていきます。これらは個別的な介護について深く考え、さらに課題解決能力を養うことにもつながっています。

生徒たちは3年間に多くの人と出会い、共に活動し、福祉の心を育て、専門性を身につけていきます。そして、地域福祉の推進のために大きな成果を上げていきます。

介護の質を高めるために

◇栃木県立田沼高等学校◇

感性豊かな人間性の育成を目指す

本校には福祉学科を設ける高校が3校あり、社会的・基本的な知識と技術を

を習得させ、福祉マインドを育成し、社会福祉関連従事者の養成を目指しています。今回の全国産業教育フェアでは、3校とも目指している「豊かな感性を備えた専門職」の育成のための学習について発表します。

福祉サービス利用者の生活の質を高めるために、レクリエーション援助活動は大切な学習です。栃沼高校では四季をテーマにし、ベスト

リーを作成し、利用者がいろいろな福祉施設など

自由にそのパーツをつけて、出来上がりをみんなで楽しめるように工夫しました。真岡北陵高校ではエプロンシアターを作成しました。ストーリーを考えエプロンを舞台にして利用者の前で演じます。すべての過程を一人

で取り組むため、生徒の創造力や表現力、発表力や観察力を高めるのに大きな成果を上げています。

次に、福祉学科では

黒瀬高等学校

【 広島県 】

特色知って進路選択の参考に

オープンスクールに1000人

高瀬 黒

授業方針や内容を異体
が毎年、実施しているオ
ン・コースが、自ら80
日に行われた。

県内の中学3年生約1
000人を対象とした訪問レ
普通科と福祉科に分かれ
て体験学習をしたり、ク

ラブ活動を得意。普通科
では情報処理室でパソコン
を使ったホームページ
の作成を体験。クラブも
盛んで音楽の授業にも参
入している和太鼓の演奏
を聞いた。

入浴実習を体験。同校の
生徒が実際に湯桶を使っ
て入浴の手順を説明し、
中学生らもアドバイスを
受けながら慎重に操作し
た。松野中3年の山田尚
加さん(15)は「体験し
てみて介護への関心が高
まった」と話していた。
また、教育全面課の主
任教諭が、普通科に属し
て1クラスを少人数制に
するカリキュラムや、県
内で唯一、介護福祉士の
受験資格を得られること
などを紹介した。



福祉科での入浴実習

淀商業高等学校

【大阪府】

○

○

パソコンの操作についてサポートする大阪
市立淀商業高の生徒(西淀川区の同高で)



高齢者にパソコン教室

大阪市立淀商業高校

来春から「福祉ボランティア科」を府内の高校で初めて新設する大阪市立淀商業高校(西淀川区、大倉雅之校長)の三年生が十五日、お年寄りを招いたパソコン教室を開き、講師役を務めた。同高は来春以降の本番に向け、「今後も住民との交流を深め、どういったボランティアが必要とされているのかを知りたい」としている。

大阪市の福祉教育推進校に指定されている同高では、三年生四十人が社会福祉基礎講座を履修、養護老人施設などで実習を行っているが、「生のボランティアを学ぼう」と、地元社

福祉ボランティア科 一足早く「実習」 来春から新設

会福祉協議会などとパソコン教室を開くことにした。

この日の教室には三年生十二人が参加。近くに住む高齢者ら十五人に、マウスの動かし方やひらがな入力などを、横に座って一つひとつ丁寧に指導し、デジタルカメラで撮影した顔写真入りの名刺とカレンダー作りを手伝った。

松田絵梨加さん(17)は「最初は、どんな風に教えたらいいか迷ったけど、わかってもらえた時はうれしかった」と笑顔。教えられた井川和巳さん(66)は「細かく教えてくれたので、スイスイ進んだ。パソコンの解説書を読むのも、習いに行くのも大変なので、こんな近くで教室があると大助かり」と話していた。

青木健至教諭(39)は「簡単なパソコン技術でも、教える喜びは大きい。今後は介護などで支援できる場を増やし、生徒に福祉という分野におけるボランティアの大切さを学んでもほしい」と話していた。

新設される福祉ボランティア科は定員四十人。看護基礎医学などを学びながらボランティアの実習を経験し、卒業時には介護福祉士の受験資格を得られる。

大阪

社会部

- 06・6311・3111
- 豊中支局 06・6857・2345
- 〒561・0881 豊中市
中桜塚2の31の12
- 東大阪支局 0729・66・4988
- 〒578・0956 東大阪
市横枕西172の903
- 枚方支局 072・841・6565
- 〒573・0031 枚方市
岡本町7の1の811
- 堺支局 072・232・1072
- 〒590・0048 堺市一
条通1の23
- 泉佐野支局 0724・69・5571
- 〒598・0055 泉佐野
市若宮町10の16
- 広告のご用は
06・6367・8201

高齢者福祉の現状について意見交換する
専門家と生徒ら



熱い福祉交流

欧米の高齢者福祉専門家

現状紹介や将来語る

淀商高福祉ボランティア科

・西淀川区

高齢者福祉の専門家と、福祉を学ぶ高校生の交流会が三日、西淀川区野里三丁目

の市立淀商高(笠岡廣志校長)で開かれた。同校に二年前に発足したばかりの福祉ボランティア科の一年生四十人が参加。生徒らは欧米の福祉の現状を学ぼうと専門家らに熱心に質問していた。同校を訪れたのは、内閣府の「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」の一環で一日から来阪しているスウェーデン、米國、オーストラリアの高齢者福祉の専門家や青年リーダー十三人。一行は生徒らに「福祉の仕事に関心を持った理

由」や「将来就きたい仕事は」などと質問。生徒らは「祖父母と接するうちに高齢者への福祉に興味を持った」とか「将来介護福祉士の資格をもつた看護師になりたい」となど答えていた。生徒らが「どんな仕事をしているんですか」などと問うと、専門家らは高齢者ビジネスの会社が成功を収めていることや、官民のパイプ役の福祉コーディネーターとして高齢者福祉に取り組む現状を紹介していた。訪日団の一人で、米國のメイザー・ライフウェイズ高齢研究所のダニエル・クーン教育部長(五七)は「高齢化社会が進む日本にあって、高校生が熱意をもって将来の福祉に取り組むことに喜びを感じる」とすっかり感激した様子。同高一年の岡田有未さん(一七)も「高齢者福祉についてもっと話し

たかった」とわずかな時間交流に残念がっていた。笠岡校長(五五)は「福祉の共通項があり、話題が尽きなかったと思う。生徒らが海外の専門家の方々と交流するのは初めてだが、貴重な経験になったと思う」と会の意義を強調していた。(中村元則記者)

長浜高等学校

【 滋賀県 】

長浜高の福祉科生は 介護や援助技術学ぶ

病院など10カ所訪れ実習

長浜市平方町の長浜高校福祉科二年生四十人は七日から、湖北、湖東、東近江地域の福祉施設や病院など十カ所で介護実習を始めた。十八日

まで土日曜日を除く十日間実習し、施設利用者らとじかに接しながら、介護や援助技術を実践する。

浅井町内保の特別養護



入浴後のお年寄りの整髪をする
生徒⑤＝浅井町内保の福良荘で

老人ホーム「福良荘」では、生徒三人が実習。歌やクイズのレクリエーション活動を手伝ったり、入浴後のお年寄りの髪をドライヤーで乾かすなど熱心に取り組んでいた。寺井愛（めぐみ）さん（左）は「コミュニケーションを大事に、現場の状況をしっかり学びたい」と話していた。

同校福祉科では毎年二、三年時に施設実習を実施。介護福祉士の国家試験への必修科目であるほか、生徒の進路選択などにも役立てている。

（高橋 まち子）